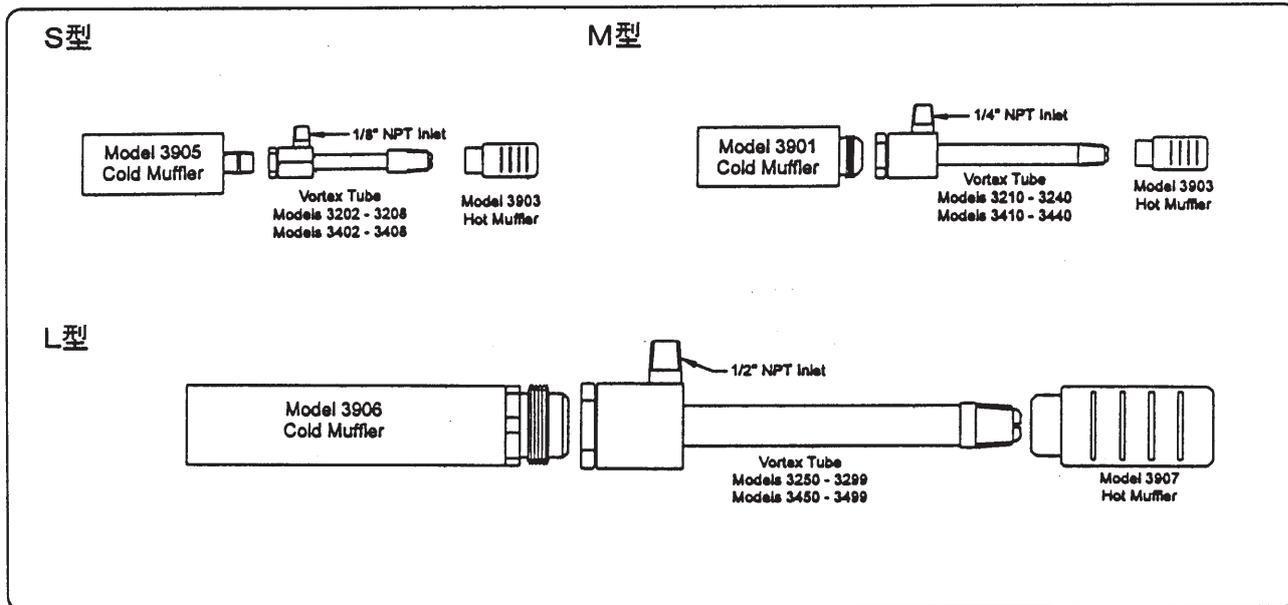


コールドチューブの取り扱いについて



圧縮空気の供給

性能上効果的な供給圧力は5~8kg/cm²です。また許容出来る最低限度の供給圧力1.5kg/cm²です。
 コンプレッサーからの供給圧力を調節する事により、効果的な使用条件を選定することが出来ます。
 また、サーモスタットと電磁弁を組み合わせることにより、一定の温度条件でオン・オフの制御が可能となります。トレンフィルター(40ミクロン以下)の後使用をお勧め致します。
 供給空気にゴミや塵等が混じっていると機能の低下の原因になり、又水分等が混じっていると冷風の排出口で凍結するおそれがあります。

配管寸法

配管長／		3m迄	3~15m	15~30m
機種	S型(#3202~#3208)	1/8"	1/4"	3/8"
	M型(#3210~#3240)	1/4	3/8	1/2
	L型(#3250~#3299)	1/2	3/4	1"

ジェネレーター

ジェネレーターにはどのタイプにも数字と文字が記入されています。御使用の条件にあったタイプに交換して使用することが出来ます。

☆例えば、25R、25Cと刻印されている場合
 25=供給圧7kg/cm²での空気消費量をSCFMで表したもの
 R=(refrigeration) 最大冷却用/マイナス18度以上
 C=(cold) 最大低温用/マイナス18度以下
 * 1SCFM=28.32 l/min

流量・温度の設定

1:熱風出口のバルブを調節(開閉)

バルブを開くと熱風出口から排出される空気量は多くなり、冷風出口からの空気量は少なくなります。(この場合の空気消費量の合計は変わりません)
 冷風出口より排出される空気量が少なくなればなるほど、冷風温度は下がります。
 温度計を冷風出口(マフラー使用の場合はマフラー)に差し込んで正確に測定してください。*通常 冷風80%, 熱風20%でセットされることが効果的な使用方法です。

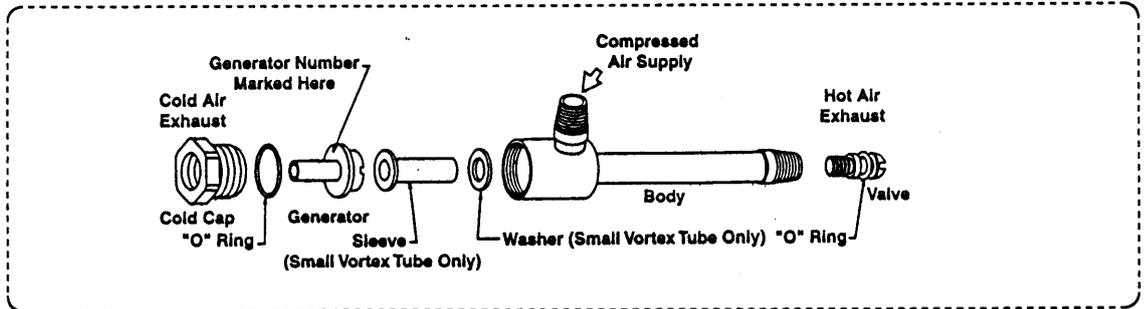
2:ジェネレーターの交換

最大冷却というのは供給空気温度より約30度、最大低温というのは約40度~70度低い温度を言う。コールドチューブは一定範囲の容量で効率よく作動するように設計されています。コールドチューブに15Cのジェネレーターを取り付けた場合、最も効果的な最低温が得られます。

消音器

冷風吐出口の音(騒音値)を抑える必要がある場合は、別売のマフラー(消音器)をご使用下さい。(＃3901) 《0.3Mで75DBA》
コールドキャップ(冷風キャップ)を外し、冷風マフラーをしっかりとねじ込んで下さい。
熱風出口のバルブには消音効果があります。
さらに消音が必要な場合は別売の熱風用消音器(＃3903)を御使用下さい。

* 展開図



コールドチューブが正しく機能しない場合

① 冷風キャップのゆるみ

冷風キャップはコールドチューブ内のジェネレーターを固定させるものです。

ジェネレーターがゆるむと、エアースルとして正しく機能せず、性能が著しく低下するおそれがあります。

*****冷風キャップは必ずしっかりと締めて下さい*****

② 供給空気圧

供給圧が低いと性能が低下致します。

効果的な圧力は5~8kg/cm²です。

作動中に空気供給口で圧力を計測して下さい。但し、圧力計とコールドチューブの間では、カプラ等の取り付け用器具は使用しないで下さい。

③ 供給空気温度

供給空気の配管が炉の近く、直射日光に当たる場所等を通っていると、供給温度の方が周囲温度より著しく高くなるため、適切な冷却が出来ない事があります。

④ 背圧

0.14kg/cm²以下の低い背圧は影響しませんが、0.35kg/cm²の背圧は約3度性能に影響します。

冷風出口にダクトを接続する場合は、直径10mm以上、850ℓ/minチューブでは直径13mmと考えて下さい